

## インド福祉村（一九八七年～）

私の親友である元名大病院分院長の柴田先生が、或る知人から、インドの医療状況が極端に悪く、病気にかかっても医療を受けられない人が大部分だと聞かされて、彼はぜひインドに無料の診療所を作りたいと考え、相談にいらっしゃいました。

私も無料診療所を作るのに賛成でしたが、それだけでなく、様々な福祉施設や不就学児童のための教育施設も含めた福祉村をインドへ作ることを提案しました。

そこで、柴田先生と山本の二人が有志に呼びかけて、インド福祉村建設委員会を立ち上げたのが、一九八七年でした。

外務省を通じて、インド政府へ申し込みましたが、「インドは医療も福祉も充実しているから外国人にやってもらうことは何もない。」と、にべもなく断られてしまいました。

その上、インドでは外国人は土地を購入することもできないとのことでした。福祉村用地の購入すら、我々にはできないことが分かってきました。

柴田先生も、私も、仏教信者ですから、インドに福祉村を作るのなら、お釈迦様ゆかりの土地にしたいと願ってましたので、釈尊ゆかりの土地を提供して下さるインド人を探さなくてはなりませんでしたから、本当に大変でした。

発願してから十年近くたった頃、やっとのことで、お釈迦様入滅の地であるクシナガラ近くの土地を提供してくれるインド人が見つかって、インド福祉村の建設を始められるようになりました。

診療を担当して下さるグプタ医師も着任されて、一九九八年十一月に、診療を始めることができました。

外務省の草の根援助資金や、郵政省の国際ボランティア預金の配分などもいただいて、基本的な医療機器の購入をすることができましたし、トヨタからは救急車を寄付していただきました。

また、愛知医大の先生方や一般市民の皆様のご協力も多くいただいております。

二〇〇〇年には、グプタ医師を福祉村病院へお招きし、エコーや胃カメラなどの研修をしていただきました。

開院後はグプタ医師の評判も大変よくて、外来患者は日増しに増え1日百名を越す日も多くなり、更に、他の病院ではよくならない患者さんが、当院を頼って来院される症例も次第に増えてきました。

疾病の治療だけでなく、各家庭を回って衛生教育や生活指導も行い、疾病の予防にも努めております。

近く、不就学児童の教育も始めたいと考えて、準備を始めております。